



平成26年8月15日

終戦の日にあたって

本日、わが国は69回目の終戦の日を迎えました。先の大戦で亡くなられたすべての御霊に対し、謹んで哀悼の意を表します。国家のために一命を擲った英霊に哀悼の誠を捧げることは一国の指導者にとって当然の務めであり、独立国家としての根幹にかかわる問題です。昨年12月、安倍晋三首相は靖国神社を参拝しましたが、内外からのいわれなき非難に屈することなく、このたびも靖国神社に参拝されるよう要望するものです。

現在、近隣国は、事実無根の「南京大虐殺」や「慰安婦問題」など歴史認識をめぐる対日攻勢を強めています。その背景にあるのが、「先の大戦で日本はアジアを侵略した」とする東京裁判史観です。しかし、米国をはじめとする連合国側がわが国を一方向的に断罪した東京裁判は、不当極まりないものと言わざるを得ません。私たちは、先の大戦は「欧米列強の植民地支配から有色人種を解放し、白人優位の人種差別政策を打ち砕くとともに、わが国の正当な自衛権の行使としてなされたもの」と解釈するのが、公正な歴史認識だと考えます。

歴史認識をめぐる日本の名誉を回復し、日本の誇りを取り戻すためには、河野談話の撤回、村山談話の見直しが喫緊の課題です。昨夏、わが党の大川隆法総裁が、政府の歴史認識を改める新たな首相談話の参考として、「大川談話-私案-」を発表しました。安倍首相には、新談話を発表し、正しい歴史観に基づく日本の姿勢を内外に鮮明にするよう重ねて求めるものです。

なお、本日、幸福実現党は党首以下、靖国神社を参拝するとともに、「終戦の日 英霊への感謝と未来への集い」（東京・赤坂のユートピア活動推進館で11時、13時、15時の3回開催）にて、宗教政党として日本と世界の平和と繁栄を祈念いたします。

幸福実現党 党首 積 量子